

2024年度通期決算説明会 主な質疑応答（要旨）

日時：2025年5月13日（火）16時30分～17時30分

当社出席者：代表取締役社長 大治良高、専務取締役 古川敏之、上席執行役員 小林啓一

主な質疑応答：

【全体】

Q) 米国関税影響について。

A) 米国の追加関税コストは主に時計事業で発生するが、北米にて値上げを予定しており、今回の追加関税のインパクトは概ね吸収できる見込み。

【時計事業】

Q) 2025年度の業績予想について。

A) 増収増益を見込む。国内は内需のレディースブランドの回復やインバウンド需要の伸長などにより1割程度の増収を想定。北米はメンズブランド『アテッサ』の展開や“BULOVA”ブランドの拡販などにより引き続き販売単価上昇を図り、1桁前半の増収の見通し。欧州は前年並みの水準を維持し、中国を含むアジアは微増に転じる見通し。

Q) 米国の追加関税による景気変動影響について。

A) 米国関税政策に伴う景気変動は先行きが不透明のため見通しは非常に困難だが、足元の市況は想定線で推移している。

【工作機械事業】

Q) 2025年度の業績予想と受注動向について。

A) 受注の回復トレンドは3か月前の想定から変更しておらず、2025年の後半から受注が回復基調に転じる前提で計画している。また、地域ミックス改善による収益性の向上も見込む。足元の受注状況は緩やかな回復基調を辿っている。

【デバイス事業】

Q) 2025年度の業績予想の減益見通しについて。

A) 2024年度に好調だったフォトプリンターの新製品の売上減少影響を織り込んでいる。部品ビジネスは増益計画。また、プリンター事業で数億円程度の米国追加関税コストが発生する見込み。

以上